

平成30年2月2日

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	浜田河川総合開発事務所	氏名	長崎 博明
派遣先 団体名	任意団体 イワミノチカラ		

1 研修の日時

日 程	午 前	午 後
(1)11月7日(火)	里山ハイキング(ノルディックウォーキング)とそば(8:00~15:30)	
(2)11月11日(土)	柿本人麻呂の妻「依羅娘子」のふるさとを歩く	
(3)11月19日(日)		世界最古のウィンタースポーツ！？ 雪合戦を楽しもう！！
(4)11月23日(木)	空港見学ツアー「萩・石見空港」って どんなどころ？	
(5)12月2日(土)	焚き火を囲んで焼き米作り&うずめ飯 体験	

2 研修の内容(できるだけ詳しく記載してください。)

(1)里山ハイキング(ノルディックウォーキング)とそば

案内人:京ら屋 村田正明さんご夫婦

行程:別紙1のとおり

①概要

京ら屋の村田様ご夫婦主催で、「いわみん」で毎回イベントを開催されている。邑南町にある京ら屋をスタート地点とし、参加者の方々と林道をウォーキングして紅葉を楽しみ、その後、「気まぐれけーじのそば屋」で新そばを食し、京ら屋まで再びウォーキングした後、昼食をとりながら参加者と交流した。

②活動の意義・イベントに参加して

案内人の村田さんご夫婦にお話を伺うと、イベントをとおして交流人口が増え、邑南町を訪れる人を増やしたいとおっしゃっていた。参加者は、地元邑南町、江津市、浜田市及び広島市から参加されていた。イベントをとおして、他市町の方も邑南町を訪れ楽しんでいただく体験ができることは素晴らしいと感じた。

③今後に向けた視点

今回のイベント参加者の多くは、京ら屋の常連のお客様であることがわかった。イベント日が平日であったということもあるが、冊子「いわみん」を見て参加という方が少ない印象を受けた。「いわみん」の冊子を情報発信のツールとして活用し、より集客につなげるにはどのような方法があるかを考えることが必要であると感じる。

(2)柿本人麻呂の妻「依羅娘子」のふるさとを歩く

案内人：万葉ロマンの里・二宮会長 本藤 逸雄

①概要

柿本人麻呂が詠んだ石碑のある「君寺」や、多嶋神社をめぐる全行程4kmのコースをウォーキングした。地域住民によるガイドや、宮司からの解説もあった。

②行程【詳細版】

時間 (概算)	内容
9:00~9:30	受付
9:30~9:40	スタート 【概要説明】 今回の行程の説明、全員の前で参加者の自己紹介(1人ずつ)を実施。 参加者の声⇨歴史・和歌が好きの方、歩くのが好きな方が参加している印象。 参加者は60代以上がほとんどであった。
9:40~11:00	多嶋神社へウォーキング ・江津の観光案内の方(地区の方?)がガイドしながら最初はスタートしたが、途中からは各々ばらばらで歩いていた印象。 ・途中、昔酒蔵をされている方のお宅訪問(お庭を拝見) ・山道を歩いていると、山菜や咲いている草花の情報の話が参加者の間で出て盛り上がっていた。 ⇨植物や景色もとても魅力ある資源であると感じた。 ・多嶋神社ではお宮の中にも入れさせてもらった。神社全体から歴史の趣を感じることができ、参加者の方も楽しそうだった。
11:00~11:30	さらに歩き、柿本人麻呂が熱を冷ましたとされる「スイ床」を拝見。 ・普段は入れないが、家主から了解を得ているため庭まで入らせてもらい見ることができた。
11:30~11:50	場所情報が分からないが、登った公民館付近で話を聞き少し休憩した。
11:50~12:20	二宮地域コミュニティ交流センターへ戻った。
	・昼ごはん:300円 ・アンケート記入 終了

③活動の意義・イベントに参加して

確認項目	内容
進行上感じた点の整理	【受付】 ・参加者名簿が準備されており、確認しやすい状態だった。 ・おつりもある程度準備されていた。 ・地元文化祭参加者の飛び入り参加が多かった(アットホームな感じ)。 ・飛び入り参加者が多く名札(首にかける)が人数分準備できなかった。 ・参加者集合場所がよく分からない状態だった。 ・500円の料金内訳(ご飯代なのか等)を知らない方が多い。 ⇨今回は純粋な参加料として徴収しているように感じられたと思われる。

	<p>【ウォーキング中の印象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩くスピードが様々で、前と後ろで大きな差があった。地点毎でみんなのスピードを合わせるペースメーカーが必要と感じた。 ・高齢者の多い場合は、途中車で帰れる地点があるとより安心であるとも感じた。 <p>【全体の印象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話を聞きながら歩く+αの何か(絶景地点、お菓子、お茶)があるとより楽しめると感じた。
お客様の様子を踏まえたプログラムであったか	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史関係の詳しい説明が多かったため、歴史好きの方には楽しい内容。 ・ウォーキング目的の方には、少し話が長く感じる点もあったと思われる。 ・1人で参加された方も多くいたことから、参加者同士や運営側と参加者ももっと身近に話せるとよかったと感じた。 ・飲み物持参であったが、持ってきていない人は最後まで水分補給するポイントがなかった。可能であれば、飲み物の準備ができていたとよかったと感じた。
ガイド内容、お客様の反応はどうか	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドの声が後ろの方に聞こえないときがあった。拡声器があるとよかった。 ・途中ガイドの長いところでは、退屈そうにされるお客様もいたが、楽しそうに頷きながら聞かれている方も多かった。
次回に向けての改善点	<ol style="list-style-type: none"> ① 料金内訳をより明確にする。(何の費用なのか、ご飯・飲み物がつくのかなど) ② 地点毎で全員がそろってみんなで回れるように配慮する必要がある。 ③ 参加者世代を把握し、途中の水分補給地点、車で帰ることができる地点を用意するとよい。 ④ 歴史と楽しい話+αを目指して、何かメインとなるスポットを決めるとよいと思われる。そこでみんなでお菓子を食べながら交流等。何かを食べながら話を聞くとより楽しいと思われる。 ⑤ 今回のイベントでは、冒頭一人一人自己紹介をする場面があった。その際に次回からは、今回の参加目的を確認し、歴史に興味のある人の割合等に応じて説明内容を検討してガイドするとよいと感じた。 ⑥ ガイドは拡声器等を準備する。

初めて二宮地区に行きイベントに参加させていただいた。ウォーキング中、空き家が目立つ地区があり、運営側の大前さんも危惧されていた。耕作放棄地も多いと聞き、人手不足を感じた。

今回のイベントは過去に何度も開催されているとのことで、柿本人麻呂や歴史に関心のある方にとっては、話を聞きながらそれに関連するスポットを回れる楽しい内容であると感じた。

(3)世界最古のウィンタースポーツ！？雪合戦を楽しもう！！

案内人：島根県雪合戦連盟 大屋 啓一

①概要

参加者は家族連れで20名程度の参加者だった。参加者の大部分は地元旭町の方であった。実際にルールの説明を受け、デモンストレーション後、子どもたちのチームと大人チームをそれぞれ2チームずつ作り、順番に試合をする形であった。

今回のイベントをとおして、雪合戦に興味をもち、毎年夏・冬に開催される大会や、冬の雪合戦大会に興味を持ってもらえたと思う。

②活動の意義・イベントに参加して

イベントに際しては、浜田市旭町の方を中心とするチーム零(ゼロ)の方々や、島根県雪合戦連盟の方が運営をされていた。雪合戦の楽しさを知ってもらい、スポーツ雪合戦の普及を進めること、旭町がイベントをとおして盛り上がるように活動される姿があった。

③今後の視点

参加者が旭町の方が中心であったことは残念な点でもあった。雪合戦をあまり知らない他の市町の方や、旭町にあまり行ったことのない家族連れがイベント参加してもらえるように情報発信等に取り組む必要性を感じた。「いわみん」の冊子や一部の小学校に配布したチラシによる情報発信を行っていても、参加者は旭町の方が中心となってしまう。情報発信とともに、「イベントに参加してみたい！」のきっかけを作る仕組みが必要である。

これには、例えば旭温泉とコラボしたり、付近の食堂とコラボしてイベント+αの行くきっかけ作りを作ることも大切だ。イベント運営の方の思いと、参加者がマッチングして、より素晴らしいイベントになってほしいと心から思うし、できることは協力したいと感じた。

(4)空港見学ツアー「萩・石見空港」ってどんなところ？

案内人：萩・石見空港スタッフ

行程：別紙2のとおり

①概要

普段空港利用でしか行くことがほとんどない空港で、空の旅を陰で支える人たちの姿を見てもらい、萩・石見空港に関心をもってもらうため、親子連れを対象としたツアーを開催した。

参加者は家族連れ十数組だった。

②活動の意義・イベントに参加して

萩・石見空港は東京便2便継続のため、利用促進に県・益田市及び萩・石見空港利用拡大促進協議会の幹事市を中心に取り組んでいる。利用促進の取り組みの一つに、空港がより身近な存在になること＝マイ空港意識の醸成が挙げられる。

今回のイベントは、家族連れが普段あまり見ることができない空港の裏方の仕事や場所を見学することで、楽しみながら空港に関心をもってもらうことができたと思われる。特に小さな子供たちは、間近で航空機を見たり、空港で活躍する車両を見学して楽しんでいる様子であった。子供たちが空港に関心をもつきっかけになるとよいと感じた。

「いわみん」のイベントをきっかけに、萩・石見空港に足を運ぶ機会を創出することができたと思う。

③今後の視点

今回のイベントで空港を訪れ、空港が身近な存在と感じていただいても、次に空港に行く理由・きっかけ作り、そして空港利用につなげていく仕掛けが必要になる。その仕掛けを考えていくことは難しいが、訪れる機会をチャンスととらえ、空港利用促進につなげる取り組みができるとうれしいと感じた。

私の所属する浜田河川総合開発事務所でも、「いわみん」でイベントを開催することで、ダム存在を知ってもらい、これをきっかけに土木行政に関心をもってもらう取り組みをしたらおもしろいと感じる。イベントとして楽しんでもらえるプログラムを作ることが前提であるが、検討してみたいと思う。

(5) 焚き火を囲んで焼き米作り&うずめ飯体験

案内人:ぬくりもりの里二川 小原 静伍

行程:別紙3のとおり

①概要

参加者と一緒に、郷土料理である「うずめめし」作りと「焼き米」作りを体験した。参加者と一緒に料理を作ること、お互いが交流を楽しみながら取り組むことができた。

②活動の意義・イベントに参加して

案内人に今回のイベントを開催されたきっかけをお聞きしたところ、「普段お年寄りが中心のこの地区に子どもたちが来てほしい。そして、二川地区のことを知ってもらいたい。」とおっしゃっていた。「いわみん」のイベントは、地域を盛り上げたいという思い、自分の住んでいる地域をもっと知ってもらいたいという思いから開催されているものもあるのだと改めて感じた。事前準備等大変でも、参加者が楽しんでいる姿を見るだけでも嬉しいということである。

この部分は自分自身意識があまりない部分であった。

③今後の視点

今後お年寄りが中心の地区は今まで以上に増えていく。そのような中で、イベントを開催して子供たちと一緒に何かする機会を作ることもイベントの価値・目的としてあっていいと感じた。参加者はイベントを楽しみ、運営側は参加者や子供たちの楽しむ姿からパワーをもらう。「いわみん」の活動はそのような要素を含むものが多いのではとも感じた。

3 研修の感想 (研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。)

私は地域振興に関心がありイワミノチカラで研修受講を希望した。担当したのは、「いわみん」のイベントの当日スタッフの補助であった。そこで、イベント主催者の案内人の方や参加者の方と一緒にいろいろな話をする機会をいただいた。「自分の住んでいる地域を盛り上げたい。」「このスポーツをもっと知ってもらいたい。」「子供たちの笑顔をみたい。」など主催者の方の思いは様々だが、参加者の方に楽しんでもらえるように運営側の方が一生懸命であることは共通していた。イベント1つすることでの効果は少ないかもしれないが継続して、様々な人と一緒に楽しみながら継続することができれば、その地域にとって「いわみん」のイベントが地域振興につながる。

行政が各地域で取り組む活動にどのように関わるかは難しい面もある。しかし、行政の支援がなければこのような地域イベントの継続は難しくなるとも感じる。高齢化が進み、人口減少が顕著な島根県で、行政側の視点で何ができるか考えながら仕事をしていきたいと思った。休日無理のない範囲で地域に出ることがとても大切なことだと改めて感じる事ができた研修だった。思うだけでなく実践していこうと思う。

① その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

(注1) 研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。

(注2) 報告書は、平成30年2月2日までに人事課あてにメールで提出してください。

研修時撮影写真一覧

(1) 里山ハイキング(ノルディックウォーキング)とそば



(2) 柿本人麻呂の妻「依羅娘子」のふるさとを歩く



(4) 空港見学ツアー「萩・石見空港」ってどんなところ？



(5) 焚き火を囲んで焼き米作り&うずめ飯体験

